

# 薬史学会通信

No.19 1994年3月

〒113

東京都文京区本郷7-2-2  
(財)学会誌刊行センター内  
日本薬史学会事務局

## 日本薬史学会'94(平成6)年度総会 お知らせ

と き 1994(平成6)年4月16日(土)午後  
ところ 東京大学薬学部記念講堂(文京区本郷)

12:00～ 評議員会

13:30～ 総 会

14:00～ 特別講演 「日本医薬品産業史」

日本薬史学会 山田久雄：近代史

東京理大薬 山川浩司：現代史

16:00～ 懇親会：東大医学部図書館地階食堂(会費・3,000円)

(来聴歓迎)

94  
年度  
の  
2  
大  
企  
画

### その1 第3回ヨーロッパ 医薬史蹟を訪ねる旅

6月19日(日)～28日(火) 9日間

北欧3国(ストックホルム、ヘルシンキ、コペンハーゲン)

夏至祭(6月24日～25日)をヘルシンキで

### その2 日本薬史学会創立40周年記念行事

10月29日(土) 13時より

日本薬学会長井記念ホール・B2F(渋谷)

記念講演会と薬史学雑誌40周年記念号発行

## 米国薬史学研究所 (AIHP) 見聞記

船越清輔

### マジソン・ウィスコンシン

シカゴから車でハイウェイ90を北西に約2時間半、丘陵地帯を抜け、町に近づくと、道路の両端に2つの湖の優美な水面が見えて来る。さらに進むと、白亜のステートキャピトルの威容が、いやおうなしに目に入る。目ざす米国薬史学研究所の所在地、マジソンである。

ウィスコンシン州で一番大きな都市は、ビールで有名なミルウォーキーだが、政治、経済、文化の中心は、ここ州都、マジソンである。

キャピトルヒルで車を降り、ステート通りを西へ7-8分歩くと、そこはもうUW (University of Wisconsin)のキャンパス。夕陽の美しいメンドタ湖沿いにあるメインキャンパスは、敷地927エーカー、新旧おりなす、194の建物からなっており、学生数41,000名、教授陣2,400名といった、アメリカでもトップクラスの大学である。薬学部は、ユニバーシティアベニューとチャーター通りの角に立つ、チャンバリンホールの中にある。AIHPはその1階だった。

### American Institute of the History of Pharmacy (AIHP)

緑でふちどられたドアをくぐり、ホールの中に入る。外観に比し内装がやけに近代的だった。学生運動が盛んな1970年、同ビル内に設立されていた、Army mathematics Researchをターゲットに爆破が企てられたという。後年後始末の大改装がなされ、少々アンバランスな面がある。1314号室がAIHP。早速4名の常勤スタッフを紹介しよう。

トップは1988年就任の4代目Director, Gregory J. Higbyさん。上品なあごひげが印象的。研究所の統括、関係団体との折衝が

大きな役割である。1977年ミシガン大学薬学部修了後、UWへ移り、Ph Dとなる。HistorianでEditorでもある。趣味は、バードウォッチングと、楽器トロンボーン。Assistant DirectorはElaine C. Stroudさん。Managing Editorで財政面の実務者でもある。私自身施設の案内等で大変お世話になった方だ。Ph Dで書誌学者。13才を頭に3男の母親。サッカー、カヌーイングが楽しみというスポーツウーマン。Rosemary Zurlo-Cuvaさんは、Program Manager。“Pharmacy in History”等定期刊行誌、ニュースレターの発行責任者。定例会の設営も彼女の役割だ。趣味はアメリカンインディアンの研究と、女性らしくニッティング。最後はOffice AssistantのAlice Revardさん。会員のコンピューター管理、出版物の受発注、その他庶務全般だ。5月に第一子、女兒を出産、現在子連れで勤務中。

### AIHP設立の経緯と活動方針

AIHPは1941年1月22日、6名の卓越した薬学者達により、UW薬学部で、その第一声をあげた。時の薬学部長であったArthur H. Uhl、薬史学のパイオニアとしてよく知られていた、名誉教授のEdward Kremers、2人の現役若手教授、Louis W. Busse、Lloyd M. Parks、ウィスコンシン州薬剤師会長Jennings Murphy、そして歴史学者として世界的に有名であった、ドイツ人のGeorg Urdang等が初期の設立者である。彼等は薬学教育分野における薬史学の重要性を唱え、ResourcesとFacultyの両面で恵まれた、このマジソンにアカデミックな研究所の設立をなしとげた。初代のDirector(1941~1956)は、後に薬学部主任教授となったG. Urdangである。

ここで当研究所の活動方針にふれたい。

1. 薬学・薬業に関する歴史的資料の収集、選択、整理、そして公開。
  2. 薬史学研究者（プロジェクト）と卒直な討論をし、的確な助言を与え、その成果を発表する。
  3. 薬学校の薬史教育課程分野に対し、情報と、手法を提供する。
  4. 一般大衆の興味をひく歴史的な話題については、新聞、雑誌等へ直接寄稿する。
  5. 科学史研究団体、とりわけ医史学研究機関との相互理解を深め、協調関係により、一層の進歩をとげる。
- 上記が基本方針となっている。

#### AIHP 50年の歩みと、これからの50年

AIHPは1991年、満50年を迎えた。1月22日の記念行事には設立者の一人、Louis Busse 元教授も元気な姿で参列されたという。ところで当研究所も決して順風満帆で今日に至ったわけではない。活動の中が広がるにつれての資金難がその大きな問題であった。しかしこれも、1983年フィラデルフィア出身の薬剤師、Dr. R. P. Fischlis の未亡人、J. D. Fischelis さんによる遺産（不動産）の贈与で一挙に解決した。その結果1986年に当研究所は薬学部から完全に独立を果たすことができた。

一方1953年から始まったUrdang Medal と Kremers Award の二賞は若手研究者の大きな励みとなっている。

さて今回は紙面の関係で個々の資料について十分紹介できなかったが、UWメモリアル図書館にある、1574年のPharmacopoea Augustana, Kremers ファイルの一つ1760年からのメーカー、ディラーのプロモーションカタログ等、ここには貴重な所蔵品が目白押しである。会員諸先生のご訪問をすすめたい。

最後に Dr. Higby に AIHP の将来展望と日本薬史学会に対するアドバイスについてたずねてみた。

前者は、①強固な組織とするため、新しい会員、賛助会員の獲得、②関連科学史機関との新しい協調関係の樹立であった。後者は、①大学における薬史教育の強化と学生に対する情報の提供、②図書館（専用又は共用）を持つこと、③国際学会で発表すること、④アイテム（薬史学カレンダー等）を活用し学会をPRすること、であった。

Dr. Higby の言葉を肝に銘じ、今後とも薬史学会発展のため献身することを誓いつつ小雪まじりのマジソンを後にした。

（1993年12月7日記）

## 日本薬史学会創立40周年記念事業・予告

### ○薬史学雑誌Vol. 29, No. 2, 記念特集号

内容:

- ・国内、国外薬史学会などより祝辞
- ・本会名誉会員よりの寄稿
- ・記念論文
- (1) ふぐ毒研究史（日本薬史学会第114年会・東京、薬史学部会シンポジウム内容）
- (2) 日本医薬品産業史
- ・薬史学会のあゆみ（年表）
- ・薬史学雑誌最近10年間総目次

### ○記念講演会

期 日：1994（平成4）年10月29日（土）  
場 所：日本薬学会長井記念ホール・B2F  
次 第：  
挨拶 柴田承二会長  
講演 W. ゲッツ（ドイツ、メルク社）  
習井シズ（順天大・医）  
難波恒雄（富山医薬大）  
山川浩司（東京理大・薬）  
懇親会：同会館1階会議室

## 日本薬学会第114年会（東京）薬史学部の内容

と き 1994年3月29日（火）

ところ 東京大学教養学部13号館311教室（目黒区駒場）

### 一 般 講 演

- 9:36～10:00 ・ 「尾張薬園濫觴録」について  
○後藤 尚夫 日野製薬 山口 茂治 岐阜薬大 田中 俊弘
- ・ 『肥後国球麻郡米良山産物帳』所蔵の薬用植物  
熊本工大 ○浜田 善利
- 10:00～11:00 ・ 明治時代の薬物展覧会について 補遺  
熊本大・岡山大 名誉教授 ○小山 鷹二
- ・ 薬剤師免状第1号について  
内藤記念くすり博物館 ○岩井鉦治郎, 青木 允夫, 田辺源三郎
- ・ 北海薬学校—設置から閉鎖に至るまで—  
北海道薬大 ○吉沢 逸雄
- ・ カノコソウの生産（栽培）に関する一考察  
日本薬史学会 ○柳沢 清久, 山田 光男, 東日本学園大学・歯 松本 仁人
- ・ 近代日本医薬品産業の発展 その9  
昭和初期における医薬品産業の状況と製薬企業(3)  
日本薬史学会 ○山田 久雄, 山田 光男
- 11:00～11:36 ・ 麻薬・向精神薬, 覚せい剤及び毒物・劇薬などの規制について  
日本薬史学会 ○末松 正雄
- ・ 第二次大戦後の日米薬学の比較(3)—医療薬学と臨床薬学—  
昭和大薬 ○金庭 延慶
- ・ 薬学史講義の試論  
共立薬大 ○辰野 高司

### シンポジウム

- 13:00～15:30 「薬学の建設者 田原良純のふぐ毒発見より百年」  
「ふぐ毒研究の薬史的考察」  
日本薬史学会 末廣 雅也
- 「ふぐ毒テトロドキシンの化学」  
九大・薬 酒井 浄
- 「テトロドキシンの薬理および生物化学の研究」  
熊本大・薬 中山 仁  
(座長) 東京理大・薬 山川 浩司

……薬史学会々費の完納をお願いします……

一般：(年) 5,000円 学生：(年) 2,000円

振替口座 東京2-67473, 日本薬史学会

### 第3回ヨーロッパ医薬史蹟を訪ねる旅

スウェーデン・フィンランド・デンマーク 10日間

本会の行事として、近代化学・薬学発祥の地、ヨーロッパの医薬の史蹟を訪ねる旅を企画・実施しており、第1回（イギリス・フランス）、第2回（ドイツ）と極めて好評を得て参りました。今年、当会の創立40周年を迎え、第3回の訪問国として北欧3国、スウェーデン・フィンランド・デンマークを視察いたします。

特異な科学技術立国であり、また福祉先進国でもある北欧の薬学について史蹟をめぐり、またその地に働く薬剤師の業務と医療事情などについても、それぞれの薬剤師会との交流などを通じて学びたいと考えております。

北欧の短い夏、白夜の季節6月は、観光シーズンとしても最適であり、バイキングの故郷スカンジナビア半島の夏をお楽しみ頂けると思います。

本会々員に限らず、ヨーロッパ訪問、歴史に興味をお持ちの方のご参加をお待ちいたしております。

#### 日 程 案

1994年 6月19日 (日)	成 田 (発)	スカンジナビア航空利用にてコペンハーゲン。乗り継ぎストックホルムへ 着後、入国手続き終了後ホテルへ [ストックホルム泊]
6月20日 (月)	ストックホルム	ストックホルム医薬史博物館 VASA博物館、シェーレ博物館
6月21日 (火)	ストックホルム	ウプサラ大学・ツェンベリーの墓 大聖堂、リンネ植物園、リンネ博物館、リンネ夏の家
6月22日 (水)	ストックホルム	スウェーデン薬史学会・薬剤師会交流会
6月23日 (木)	ストックホルム(発)	スカンジナビア航空にてフィンランドの首都ヘルシンキへ移動 着後、市内観光 [ヘルシンキ泊]
6月24日 (金)	ヘルシンキ	ヘルシンキ医薬史博物館 フィンランド薬史学会・夏至祭に参加
6月25日 (土)	ヘルシンキ(発)	スカンジナビア航空にてデンマークの首都コペンハーゲンへ移動 着後、市内観光 [コペンハーゲン泊]
6月26日 (日)	コペンハーゲン	コペンハーゲン医史学博物館 デンマーク薬史学会・薬剤師会交流会
6月27日 (月)	コペンハーゲン コペンハーゲン(発)	医薬史蹟見学 スカンジナビア航空にて一路帰国の途へ [機内泊]
6月28日 (火)	成 田 (着)	着後、通関手続き終了後解散

○ 申込先： 憐スペース TEL 03-3263-7664 [薬史学会係]  
FAX 03-3264-2635



会員著作紹介

杉原正泰・天野 宏 :

横浜のくすり文化 一洋薬ことはじめー

(1994年1月発行, 有隣新書, 950円)

横浜は近代薬学発祥地の一つであり, 調べて行けば今日に繋がる薬事遺蹟に出会うことができる。

杉原・天野両先生は, 日本開国当時の医薬事情につき幅広い調査を手がけ, 薬史学雑誌

に数々の論文を発表して来られた。今回, それらの成果を軸とし, さらに筆を進めて, 新書版という手軽な形にまとめられたのが本書である。

出版社の有隣堂は, 横浜伊勢佐木町に本店を持つ神奈川県随一の老舗であり, 地域の歴史や自然を題材にして普遍的テーマに迫ることを意図したシリーズを出している。本書はまさにその趣旨に合致するものであり, また, 横浜地方散策の手引にもなる好著である。

'93(平成5)年度総会報告(つづき)

平成5(1993)年度 予算

(単位 円)

〔収入の部〕	'92年度予算	'93年度予算	増減△
前年度繰越	3,101,333	3,324,168	222,835
賛助会費	1,020,000	1,020,000	0
一般会費	1,200,000	1,200,000	0
学生会費	10,000	10,000	0
外国会費	20,000	20,000	0
投稿料	500,000	1,000,000	500,000
広告料	80,000	120,000	40,000
雑誌販売	10,000	10,000	0
雑費	10,000	10,000	0
利子	5,000	5,000	0
寄付	0	0	0
合 計	5,956,333	6,719,168	762,835

〔支出の部〕	'92年度予算	'93年度予算	増減△
機関誌紙発行費	2,320,000	2,320,000	0
編集費	120,000	120,000	0
印刷費	2,050,000	2,050,000	0
発送費	150,000	150,000	0
事業費	950,000	1,050,000	100,000
総会運営費	50,000	50,000	0
講演会開催費	100,000	100,000	0
文庫運営費	50,000	50,000	0
西部支部費	50,000	50,000	0
予備費	200,000	200,000	0
記念行事企画・運営費	150,000	300,000	150,000
日本医薬品産業発展史編集費	150,000	100,000	50,000△
印刷補助費	200,000	200,000	0
管理・運営費	490,000	510,000	20,000
事務委託費	120,000	150,000	20,000△
(名簿管理費	50,000)	—	} (項目統合
幹事会運営費	100,000	130,000	
通信費	100,000	100,000	0
事務用品費	50,000	50,000	0
入送金手数料	20,000	30,000	10,000
雑費	50,000	50,000	0
合 計	3,760,000	3,880,000	120,000
次年度繰越額	2,196,333	2,839,168	642,835